

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年10月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4077200147
法人名	医療法人社団 桜珠会
事業所名	グループホーム 可也 桜の里
所在地 (電話番号)	福岡県糸島郡志摩町大字師吉901-3 (電 話) 092-327-2969
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年8月27日

【情報提供票より】(平成20年8月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算	人

(2)建物概要

建物形態	(併設) 単独	(改築) 新築
建物構造	木 造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円から		その他の経費(月額)	9,000 円
敷 金	(有) 252,000 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) 円		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4)利用者の概要(平成20年8月 日現在)

利用者人数	13 名	男性	5 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名		0 名		
年齢	平均 81.22 歳	最低 58 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	可也病院 、 はんだ歯科医院 、 まつお歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山々と田畑に囲まれた2階建て2ユニットの施設である。廊下に面したガラス戸の外は稲がたわわに実り四季折々の風景を見せている。基本理念である思いやりの気持ちと運営方針である笑顔、地域の一員としての生きがい、家族のようにそばに寄り添い尊厳を大切に支援していることが利用者の落ちついた穏やかな表情からうかがい知ることができる。外出支援では、ホームの近くの海や公園へ散歩やドライブに出かけたり、利用者の希望に添ってスーパーや喫茶店等にも出かけている。職員は、利用者の気持ちを大切に、常に利用者の立場に立った利用者本位の支援を心掛けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題として地域との交流についてあげられていたが、その後地域の行事に積極的に参加したり、日々の地域の方への声かけ、挨拶などを頻繁に行い地域の方へグループホームに対する理解を深めていただくよう努力されている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で話し合いまとめた。評価結果は全体会議、家族会、運営推進会議で提案し検討を行いサービスの質の向上に努めている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、家族や自治会長、民生委員、公民館長、地域包括支援センターの職員の参加を得ている。外部評価の結果や、利用者の日々の暮らしぶり等を報告し、参加者からの意見や助言については全職員で検討し、改善に努めている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族へ日常の状態などを報告時に意見、苦情、不安などを聞くようにしている。意見が出た場合はすぐに全職員で話し合い解決するように努めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの前を通る方々には挨拶や声掛けをしたり、いつでも気軽に遊びに来ていただけるよう話しかけたり、介護に関する相談等も気軽にいただくように電話番号を知らせている。地域のボランティア、専門学校からのボランティアなどの受け入れも積極的に行われている。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は「思いやり、相手の立場で観ていますか、話していますか、考えていますか、研鑽していますか」これは法人統一であるためグループホームの運営方針として「笑顔で思いやりのある暮らしやすい場所、地域の一員として生きがいや役割のある生活、家族のような生活、あなたのそばにいます、尊厳を大切にすることを忘れません」と掲げている。これは全職員で話し合い作った事業所独自のものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼時に唱和したり、全体会議などで理念を再確認することで共有を図り、日々実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会、老人会への入会はしていないが毎日の挨拶や年末の餅つきの餅配り、地域の夏祭りには参加している。専門学校からボランティアに来ていただいたり地域のボランティアの受け入れを行っており地域との交流はある。今後自治会、老人会へ参加し地域との交流を更に深めたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組んでいる。評価結果は全体会議で話し合いを行い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回自治会長、民生委員、公民館長、地域包括支援センターの職員、家族等が参加して行われている。外部評価の結果や利用者の日々の暮らしぶり等を報告し、参加者からの意見や助言については、全職員で検討し改善に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営推進会議以外にも居宅介護支援連絡協議会や高齢者サービス担当者会議に参加し、行政や社協の職員との関係作りを積極的におこない情報交換などをおこなっている。助言や改善点は職員間で検討し改善に向けて努力している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護事業や成年後見制度に関する研修等に参加し、他の職員へ伝達研修をおこなっている。家族会でも成年後見制度について説明をしている。以前成年後見制度の利用希望はあったが利用には至らなかった。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方へは日常の訪問時はもちろん頻繁に連絡を取り、その都度日常の状態や買い物の許可、病状の相談など行っている。個別に個別活動表を作り報告をしている。金銭管理は立替払いで後日家族の方へ報告し払って頂いている。職員の異動については家族へ報告はしていない。	○	退職者や新人職員の紹介のためにも家族の方が訪問した時やホームが発行している便り(桜の里便り)に載せるなど家族の方への情報として重要だと思われる
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方へ日常の状態など報告の際、頻繁に意見などを聞いている。家族の方が訪問時に何でも言ってくれる様な雰囲気作りを心がけている。意見が出た場合はすぐにチーフケアマネージャーとミーティングを全職員で行っている。小さな事でも判断が困難な場合は、地域包括センターや広域連合に相談を行いサービスの質の向上に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職の場合は、一定期間担当者と新任者として支援している。離職を最小限に抑える為に、管理者、チーフは職員とのコミュニケーションを深める中で、不満や要望を聞き取ったり、知る努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては性別、年齢等で判断せず、グループホームで勤務する職員としての適性を重視している。職員のスキルアップのための研修へは積極的に参加するように促している。また、自己実現のための休みなど有休も定期的に取れている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は年1回外部の研修会へ参加し、他の職員へ内部研修として伝達している。日々のケアにおいては常に利用者の尊厳を念頭におき、全体会議、勉強会などでも人権について話題にしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が公平に法人内外の研修へ参加する機会を設けている。研修報告書は職員がいつでも手にして見ることができるところに置かれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ参加し、他の事業所の職員と顔を合わせる機会も多く、情報交換を行って、そのなかで学び得たことをサービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅へ頻繁に訪問し馴染みの関係を築いている。病院から入居になる方へは病院へ訪問し馴染みの関係を作ってから入居に至っている。家族職員間で話し合いながら慎重に入居に至るまでを決めている。入居時に家族の方と一緒に食事をしていただき安心し入居して頂けるような雰囲気作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々接する中で利用者から生活の知恵などを教えてもらっている。また、利用者からの励ましや「ありがとう」とのお礼の言葉に元気付けられている。利用者と一緒に過ごすことにより喜怒哀楽を共にし、支えあう関係作りができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から利用者の意向や希望を聞き取る事が出来ている。また、利用者の言葉や表情から思いなどを汲み取り、利用者が思いや意向を発信しやすいように促しやアプローチを行うことで、介護側からの一方的なケアにならないようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、事業所の職員と十分に話し合い希望や意向を取り入れ、課題となる事も全職員で話し合い、把握することが出来ている。担当者、ケアマネジャーが中心となり、利用者、家族の意向や希望、課題が反映された介護計画が作成されている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い3ヶ月に1回見直しが行われている。利用者の状態変化に応じ、担当者を中心に全職員で話し合いを行い、家族を含めたサービス担当者会議を開き、介護計画の見直しを行って、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営母体が病院のため、医療連携加算を取り入れ24時間緊急対応が出来る。通院など家族が対応困難な場合は必要に応じ、施設対応など柔軟な対応がされている。また、緊急時等自宅で介護が困難なときのために短期入居も受け付けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体の病院へ定期的な受診を行っており、利用者、家族が希望する病院受診の支援も行われている。主治医とも日頃から電話などで細かい相談などしており、服薬管理も含めた医療支援が行われている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化、終末期への対応について家族へ説明を行い、意向、要望を取り入れているが母体である病院が隣にあるため、最終的には入院を希望される家族が多い。ホームでも対応できるようなマニュアルの作成や病状の変化によって、病院、家族、職員とで話し合える体制作りや方針が出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、職員の利用者への言葉かけなど十分な配慮や対応が出来るように職員間で気をつけている。個人の記録等は職員のみが出入りしている部屋で保管管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、起床時間や朝食の時間、また、就寝時間等についても一人ひとりの利用者のこれまでの生活習慣を大切に優先されており、本人の思いが実現できるような支援が行われている。利用者の表情も優しく、ホームもゆたつと和らいだ雰囲気である。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き取り、食事メニューに取り入れ、職員も利用者と一緒に同じ物を会話を楽しみながら和やかな食事が楽しめている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	同性の職員により介助がされており、利用者の希望に応じ、19時ぐらいまでの時間であれば好きな時間に入浴できるような支援が行われている。また、入浴に対し、拒否の強い利用者には言葉かけなどを工夫し、利用者が気持ちよく入浴が出来るような援助が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や家族からの情報を元に花の好きな方には、花の水やり、野菜作りが得意な方には職員と一緒に野菜作りなどを行っており、カーテンを開ける、新聞を取るなどそれぞれの役割があり、利用者の得意とすることを生かした役割分担することで楽しみや気晴らしが出来る支援が出来ている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調を考慮し、ホーム近くの海や公園などに散歩やドライブに出掛けている。また、スーパーや喫茶店と利用者の希望に応じた外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないようにしている。玄関のみにチャイムの設置をし、人の出入りがすぐ気づくように細かい見守りが行われている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	消防署の協力を得、運営母体である病院の防火管理者、病院職員の協力のもと、年に2回、日中と夜間を想定とした防火非難訓練が行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	運営母体の病院の栄養士の指導の下、利用者の栄養管理を行い、一人ひとりの水分摂取量が一日1200cc以上摂取できているか記録がされており、献立票にも一日の摂取カロリーが1400～1600カロリーと表記され、食事形態も利用者の状態に対応した刻み食、トロミ食の提供もされ、食事摂取量も記録がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体はのんびりとした雰囲気です採光も十分に取入れられ、リビングの他に談話室もあり、利用者同志でゆっくりと会話を楽しむことが出来ている。廊下には、大きな窓があり、庭への出入りが自由にでき、利用者の気持が落ち着くように工夫がされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や家具などを持参してもらい、利用者、家族の希望に添うような話し合いをしながら決めている。居室の一つ一つが広く大きな窓もあり、明るく、利用者が過しやすい居住環境である。		